

# 2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<p>○ユニバーサルデザインをもとに、個に応じた指導と支援を行うことで、基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力をバランス良く育成する。</p> <p>・国語科の文字指導を通して、文字に対する興味・関心を高め、言語感覚を磨き、基礎的な学力の習得を図る。また、読書指導を充実させるとともに、各教科でも学校図書館を計画的に活用し、自ら学ぶ主体的な態度を育てる。</p> <p>・なわとび運動に取り組む時間を通して、運動への意識を高め、進んで運動に取り組む児童を育てる。また、昼会時の保健指導や給食指導、安全指導等を通して、健康で安全な生活への意識を高める。</p> <p>・授業参観や、学校の取組の保護者説明会、「家庭学習の手引き」等を通して、家庭や地域に学校の教育活動についての理解を図り、連携を強化する。</p> <p>・小中一貫教育推進地区で、「授業規律の徹底」「基礎学力の定着」「これからの授業スタイル確立」等共通の取組を推進し、地区全体の児童の学力向上を図る。連携を深めるために、年1回の授業参観、協議会を行うとともに、児童・生徒間の交流を促進する。</p>

授業改善の重点
<p>○学習規律の定着</p> <p>・学習のルールや学習の方法を全教職員が共通理解して指導に当たり、規律ある授業態度を定着させる。</p> <p>・学習指導方法を研修し合う機会(町一研、学年会、分科会等)を有効活用し、共通理解の充実を図る。</p> <p>○基礎・基本の習得・家庭学習習慣の定着(漢字、計算、音読、日記、読書等)</p> <p>・各学年で発達段階に応じた形式の【家庭学習】(低学年はプリント、中・高学年はノートを使用する。)に取り組み、基礎・基本の定着を図るとともに、家庭チェック欄を設け学力向上に向けた家庭の協力を得るようにする。保護者会等で、家庭学習(宿題)の必要性や取り組み方の説明を行う。</p> <p>○思考力・判断力・表現力の育成</p> <p>・主体的、対話的な学習を取り入れた授業を実践し、自分の考えを表出したり、他者の意見と自分の考えを関連付けて考えを深めたりする力を育成する。</p>

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	○漢字用ノートやワークシート等の活用や定期的な小テストを繰り返し行う。 ○学び合いに必要な基礎を身に付けさせるために、話し方や聞き方のスキルを取り入れ、話し合い活動や発表する機会を取り入れる。友達のやり方を見て学び、工夫して自分からも発言や発表を行えるように学習を展開する。	○表現力を高め合えるようにするために、ペアやグループを活用する。 ○音楽に主体的にかかわるようにするために、ワークシートを活用して思いや意図を書いたり発表したりする機会を設ける。	○主体的に問題を解決する力をつけるために、児童の興味関心を生かして、課題を設定していく。 ○相手の立場や気持ちを尊重しながら関わり、表現する力を身につけるために、ゲストティーチャーを招き地域の様々な人々との活動を取り入れる。 ○自ら学び、自ら考える力をつけるために、授業場面における振り返り活動や自己評価活動を設定する。	○自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めるために「町スタイル」の授業構成をして、教材提示の工夫や道徳ノートの活用をする。 ○授業から学んだことを発言や道徳ノートから読み取り、通知表に記載し、保護者にも伝える。 ○「道徳の足あと」や「道徳の木」を掲示し、道徳的環境を整える。
	社会科	図画工作科	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点
	○情報を関連付けて考え、判断する力を身に付けさせるために、図や文章などを読み取る活動を取り入れる。 ○主体的に学ぶ意欲をもたせるために、社会科見学や、専門家を招いての授業など体験的な学習を行う。 ○自分の考えを表現し、お互いの意見を認め合う力を身に付けさせるために、個人や班ごとに予想や結果を発表し、まとめる。	○意欲的に創作できるようにするために、様々な材料や道具に触れられる題材を提示する。 ○協力して学び合えるようにするために、ペアやグループでの活動を取り入れる。 ○鑑賞の活動でも、話し合い活動を取り入れることで、対話的な学びの場を設定する。		
	算数科	家庭科	○基礎学力の定着のために、学習内容の理解度を把握する簡単なチェックテスト等を行い、指導に生かす。 ○思考力を身に付けさせるために、問題解決型の学習を取り入れる。また、表現力を身に付けさせるために、ノートに自分の考えを書いたり、自分の考えを発表したりする活動を取り入れる。グループで意見をまとめたり話し合ったりする機会を設ける。 ○計算ドリルや家庭学習プリントを活用して繰り返し練習することで、計算力の定着を図る。	○意欲的に学び合えるようにするために、ペアやグループを活用する。 ○実習・製作を繰り返して行うことで、生活に必要な技能を身に付ける。 ○思考力を身に付けさせるために、学習ノートを活用して、自分の工夫や考えを書くようにさせる。
	理科	体育科	○課題意識をもって主体的に取り組む、学習内容の理解を深めるために、事象提示を工夫し、実験観察を行うようにさせる。 ○自分の考えを表現し、お互いの意見を認め合う力を身に付けさせるために、個人や班ごとに予想や結果を発表する。 ○グループで意見をまとめたり、話し合ったりする機会を設ける。 ○友達の発表を見聞きし、自分も真似しようと意欲がでるように、授業展開の工夫を図る。 ○科学的な問いにつながる事象提示の工夫をする。	○学んだことを生活の中に生かせるように、家庭にも協力を求め、学校で学習したことを実践する機会を設定する。 ○運動の中で学んだ知識や思考を整理するために、学習カードや体育ノートを活用して、振り返りをさせる。 ○話し合いを通して、動き方や作戦などを考える。 ○毎時間の補助運動を通して、運動の基礎感覚を身に付けさせる。 ○「町スポーツタイム」の時間に一校一取り組みでもある縄跳び(長縄、短縄)を行い、体力向上を図る。
生活科	外国語科(5・6年生)	○主体的に問題を解決する力をつけるために、児童の興味関心を生かして、課題を設定していく。 ○相手の立場や気持ちを尊重しながら関わり、表現する力を身につけるために、地域の様々な人々との活動を取り入れる。 ○思考力や表現力を深めるために、主体的、対話的な学習スタイルや多様な学習活動を行う。	○英語のコミュニケーション能力を高めるために、小中一貫カリキュラムの活用や、専科担任と外国人(ALT)が連携する方法や専科担任による単独の指導法など、さまざまな指導法を行う。 ○基本的な表現の仕方に慣れるため、ペアやグループ活動で繰り返し会話する。	

本校の授業改善に向けて	ICT機器の活用	見通しをもたせる導入	振り返りの設定
	○児童の円滑な学習を促すために、デジタル教科書などの視覚的な資料を利用していく。 ○ICT機器を使って児童に教材や学習の操作方法を見せ、視覚情報を得られるようにする。 ○授業の導入で、写真や動画の資料を見せ、関心を高める。 ○児童のノートやワークシートなど、実物投影機を活用し発信・共有することで、思考の広がり、深まりを得られるようにする。	○本時のねらいを明確に提示する。 ○教科によって1単位時間の見通しを授業の始めに小黒板やホワイトボードに提示することで、進捗状況を確認められるようにする。 ○授業の流れをルーティーン化する。 ○単元の初めに、単元のゴールをモデルとして示す。	○授業の終わりに必ず、本時のめあてを振り返る時間を設定する。 ○児童が本時のめあてにせまれるよう、学習内容を板書にまとめる。 ○自分の言葉で本時の学習について自己評価させる。 ○自分で課題解決の手順に対して振り返ることで、次時の学習の見通しをもたせる。